

保健師ルポ

小規模自治体の強みを活かした対策を推進

南種子町 保健福祉課 健康保険係 保健師

日高 良美

特定健診受診率・特定保健指導
終了率向上への取り組み



歴史と未来が共存する町、
南種子



種子島宇宙センター
H2Aロケット打ち上げの様子

い丘陵地帯で中央は海拔200m、中央から西部にかけては、最も年代の古い古代第三紀層で河川が多く、流域沖積層には水田が広がっています。天文12年(1543年)、ポルトガル人が乗った明国船が前之浜に漂着し、鉄砲伝来の地として歴史的な由来を持つ町です。現在は、日本の科学技術の粋を集めた種子島宇宙センターがあることで、歴史と未来が共存する町とも言われています。

地を活かした農業が、この町の基幹産業です。特產品としては、スイーツのような甘さと食感が特徴の「安納芋」や、糖度・酸味・果汁の三拍子がそろった「たんかん」「ポンカン」、種子島産の良質なサツマイモを原料にした軽い口あたりの「芋焼酎」、1年中をとおして海の幸に恵まれる地ならではの「アサヒガニ」「ナガラメ」「トビウオ」「伊勢海老」があげられます。

南種子町は、令和2年12月31日現在で人口5550人、高齢化率36.2%となつており、人口の減少は進んでいます。国保加入者は1602人、国保加入率28.86%です。自分たちの所属する健康保険係は、令和2年度4月から健康増進部門と統合し、国民健康保険、後期高齢、健康増進事業、母子保健事業と多岐にわたって業務が行われています。職員配置は、係長1名、事務2名、レセプト点検員1名、保健師1名、管理栄養士1名、事務補助2名です。

本町は、大隅諸島の一つである種子島の南端に位置し、起伏の多い超早場米「コシヒカリ」の出荷など、その温暖な気候と恵まれた農

本町の平成30年度の特定健診受診率は50.3%ですが、国の目標60%には程遠い現状にあります。

受診率向上のための取り組みとして、特定健診とがん検診受診の際にポイントがたまり、商工会の商品券と交換できる、本町独自の「よかよかポイント」の推奨、特定健診受診券送付の際に同封する野菜の種(令和2年度はゴーヤでしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため健診期間が大きくずれたことにより、種まきの時期を過ぎてからの送付になってしまったことが心残りです。)など、インセンティブを取り入れています。また、平成30年度に作成した町のゆるキャラ「宙太くん」が大きくデザインされた受診勧奨用ポロシャツの着用、健診期間中や町のイベント会場周辺へののぼり旗設置など、地道に啓発活動にも取り組んでいます。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、積極的な訪問活動は自粛しましたが、令和元年度は対象者宅や畠田んぼへの訪問や電話等を通じて住民に身近な立場での特定健診受診率の向上に向けての取り組みも実施しました。

た。一方で働き盛りの世代の特定健診受診率が低く、平成30年度から19歳以上の国保加入者が特定健診を受診できるヤングヘルス健診を開始しましたが、依然として受診者数が少ないことが課題となっています。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、集団健診の大幅な日程の見直しを余儀なくされました。健診日数も減つたことにより、受診者数も減っています。



個別保健指導の様子



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ行われた特定健診

少しています。一方で三密を避けるために1日当たりの受付時間を縮みにつながり、受診者からは好評の声を多くいただきました。また、健診の事後フォローとして、受診者の3割を占める要精密対象者を、結果報告会よりも前に個別訪問し、受診勧奨と保健指導を行いました。結果報告会においても、受付時間を三分割して、全件個別対応としました。事前訪問の効果もありました。

令和3年度に向けて、さらに対民が受診しやすい環境づくりや自分の健康のための主体的な受診につながるような取り組みをすすめたいと思っています。

平成30年度の特定保健指導終了率は、74.7%です。集団健診の動機づけ支援に関しては、原則業者委託をしており、積極的支援と人間ドック・個別健診受診者の動機づけ支援は直営で実施しております。課題としては、リピーターへの対応や、対応保健師・管理栄養士が1名ずつしかおらず、特定保健指導のみに時間をあまりかけることができないことなどがあげられます。

今後も小規模な自治体としての強みを活かした対策を推進していくたいと思っています。

糖尿病重症化 予防プログラムの取り組み

本町は平成29年度下旬から本格的に糖尿病重症化予防プログラムへの取り組みを開始しました。管

訪問指導を原則として受診勧奨や保健指導を実施しています。

本町は特定健診有所見者割合の実施方法を見直すいいきっかけになりました。

令和元年度12.0%と増加している現状にあります。未治療者は平成28年度から令和元年度にかけて減少していますが、依然として未治療者も存在しています。

令和元年度は4名の対象者に保健指導を実施し、健診結果による評価では4名全員が改善・維持となっています。

受診勧奨や保健指導を実施する中で、「薬を飲んでも飲まなくても変わらない」などの理由から治療中断につながっているケースも見受けられます。長年未受診だった方を病院受診につなげても、病院との連携の難しさから再度未受診になってしまった事例もありました。住民の体に起こっていることを住民に理解してもらい組みだと感じています。

今後も、対象者と向き合いながら、専門職としてさらなるステップアップを目指していきたいと思います。